

たなだせいりゅう かい
棚田清流の会

～くらしがいをみつけられる郷づくり～



農業体験交流会



中学生職場体験



フォトコンテスト

経緯

- 平成12年に集落点検を行い、予想以上に高齢者単独世帯や荒廃農地が増加しており、将来への危機感が高まったことから、将来の地域ビジョン「やすらぎの里づくり憲章」を策定。自治会で解決できない共通の課題に取り組めるよう、平成13年に全住民を会員とする「棚田清流の会」を発足。
- 平成23年に地域の行動計画「夢プラン」を策定し、持続可能な地域づくりを展開。

取組内容

- 農地・景観の保全：地域住民で休耕田の草刈りや、県道沿いの休耕田に花を植えた美化活動を実施。
- 都市部及び地域住民との交流：中学生の職場体験受け入れによる稲刈り作業体験や、フォトコンテスト等を開催。
- 地域製品の加工・販売：弁当・お菓子等マルシェで販売。

活動の効果

- 「つなぐ棚田遺産」の認定により知名度も上がり、またコロナが落ち着き、都市部からの農業体験等の受け入れや、イベントを本格的に再開し、地域の魅力を感じてもらえる活動を積極的に行ったことにより、農業体験交流会の参加者数は、過去最多となるなど、地域住民の絆がより一層深まった。
- 参加者自らがアイデアを出し、行動できる雰囲気・体制を作り出すことで、「活動に参加して楽しかった」という充実感が得られ地域を守る意思の浸透に繋がった。

応募団体からのアピール・メッセージ

会結成から20年が経過し、2代目の会長に引き継がれました。この地域に興味を持ってもらえる人が増えるよう、様々な手法で地域をアピールし、新たな世代を迎え入れることで、今後新たな挑戦を行っていきます。

住所・電話番号・SNS等

周南市大字中須北784

<https://ja-jp.facebook.com/seiryuunokai/>



ゆうげんがいしゃ ふくだ
有限会社福田フルーツパーク

～ 明るく 楽しく 美しく、安全な農業を目指して ～



農薬使用量20%削減した、ぶどうの観光農園



各種自然体験や外国人の受け入れ

経緯

- 山口県周南市の北部に位置する須金地区は、ぶどう・梨の産地であり、40年以上続く観光農園が団地化(16戸)し、秋には県内外からの観光客で賑わいを見せている。
- 平成22年(2010年)、現代表に経営移譲したことを契機に、消費者ニーズや時代の変化に柔軟に対応できるよう様々な取組を開始。

取組内容

- 平成18年(2006年)から夏休みの自然体験宿泊イベント「いなかの学校」を実施。2日～3日の期間で小学生約30人を受入。
- 平成21年(2009年)からNGO団体「WWOOF」を通じ、世界中から外国人農業体験の受け入れを実施している。
- 平成23年(2011年)から自然とふれあうことを目的に、森のアーチェリー、ツリークライミングを開始。
- 平成27年(2015年)からバーベキューの飲食営業を開始し、最大1日150人を受入。

活動の効果

- エンターテインメントな観光農園を目指し、地域資源の発掘及び情報発信を率先して行ってきた結果、自然体験やバーベキューを目的とした来訪者が年々増加し、都市農村交流と須金地区の活性化につながっている。
- 地域全体の魅力を向上したことから、新規就農者も増加し、16農園の園主の平均年齢は40歳代となり、観光農園の経営承継も順調に進んでいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

エンターテインメントな観光農園を目指し、夜間のライトアップや宿泊設備の拡大など、ナイトタイムツーリズムの充実を図っていき、隣接する観光農園との連携強化やイチゴ栽培などの新たな産地形成、肥料・農薬低減にも取り組み、安全・安心な果物を提供していきます。

住所・電話番号・SNS等

周南市須万2780番地 TEL : 0834-86-2138

URL : <https://www.fukuda-fp.com/>



奨励賞

かぶしきがいしゃ

株式会社アグリーフプラス

だいひょうとりしまりやく

代表取締役

いとう てついちろう

伊藤徹一郎

～6次産業と地域財産が導く次世代の産業展望～



冷凍野菜製造工場



販売商品：離乳食用冷凍野菜ペースト

経緯

○平成22年(2010年)都道府県知事認定「エコファーマー」を取得し、出荷量を増加させ売上が向上したが、コロナ禍で卸出荷が激減し廃棄増や赤字に陥る状況となった。今まで取り組んでいた系統出荷の限界を超え、自社の真の価値に合った販売構築とフードロス削減、地域資源活用を実現する取組を実施。

取組内容

- 瀬戸内海に面したミネラル豊富な土壌で有機野菜を栽培。収穫した野菜を3D急速冷凍機で野菜冷凍を可能にし、冷凍野菜自動販売機を大学に設置。Z世代へ安全で美味しい冷凍野菜を提供して商品レビューや宣伝効果を得る。
- 主婦従業員で実施体制を整え、情報発信の適切化を図る事で消費者が求める商品やEC販売力を向上。

活動の効果

- 卸・小売流通をショートカットし、系統出荷より安価で販売することが出来るため、利益率の大幅向上。
- 自社管理出来るEC+SNSを導入し、自ら販売する事で経費削減と社員のモチベーションをアップ。
- 持続可能なビジネスモデルを構築し、地域に新たな波及効果をもたらすブランド農法の確立と地域全体の発展に大きく貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

安心して食べられる冷凍野菜をもっと身近に感じてもらえるよう冷凍自販機の導入やFC展開を実行中。今後は、主婦目線での手軽さや流通体系の見直しにより安い送料での購入方法の定着させるため、駅などの販売店へのFC化事業も予定している。

住所・電話番号・SNS等

山陽小野田市大字西高泊2055-18 Tel : 0836-39-8423

奨励賞

やまぐちけんりつ すおうおshimaこうとうがっこう

山口県立 周防大島高等学校

みんなでつなぐ未来の環 ～周防大島の挑戦～



校内飼育しているニホンアワサンゴ



生徒によるニホンアワサンゴを守るための森林整備



地域循環共生圏づくり協議会

経緯

- 内閣府主催の「地方創生☆政策アイデアコンテスト」に応募し、複数回にわたり受賞したが、生徒のアイデアが事業化に至らず、地域の多様な関係者と連携し、環境保全と地域経済活性化を実現した持続可能な地域づくりを始める。
- 周防大島南東沖に群生するニホンアワサンゴが大量死したことをきっかけに保護活動を開始。

取組内容

- 環境省が実施する「地域循環共生圏事業」において、周防大島高校の活動を軸としてプラットフォームを構築。
- ニホンアワサンゴを守るため、海岸清掃や森林整備を実施し、併せてサンゴの校内飼育にも挑戦、生態を研究。
- 県やJAなどの支援を受けながら島の特産品の「みかん」のPR動画を制作。
- 起業家の支援を受けながら、近海の海水を使用した「塩飴」を開発。

活動の効果

- 周防大島高校が進める、島全体を学びの場と考えた「島じゅうキャンパス」の取組は、地域経済循環の視点から有用であると島内外から認められ、地域金融機関グループ会社YMFG ZONEプランニングを活動団体とし、周防大島高等学校の活動を軸としたプラットフォームを構築。持続可能な地域づくりに貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

本校の取組は、ホームページ内のTopicsやYouTubeにて紹介しています。ぜひ御覧ください。

住所・電話番号・SNS等

大島郡周防大島町西安下庄489

二次元バーコード



URL:<https://www.suo-oshima-h.ysn21.jp/>

記念賞
応募はぎしよくひんきょうどうくみあい
ふるさと萩食品協同組合

～交流拠点「道の駅」から広がる地域連携～



地域の学校と連携した人材育成支援



発展途上国からの研修生受入

取組内容

○漁協や鮮魚仲買等が協力して「道の駅・萩しーまーと」を設置・運営するため、平成11年(1999年)、設立。平成21年(2009年)、一部の魚種が正当に評価されていないのは「もったいない」との観点から、プロジェクトを立ち上げ。地元の低利用魚種の利用価値を発見し、メディア等を通じ魅力をアピール。

前回選定後の情報発信の取組

- マスコミやSNSで1年を通して萩の地魚情報を発信。地元CVTVで、毎日5分間地魚を紹介する番組出演を18年間継続する他、『ブックレット萩沖の魚たち』を発行し萩沖の沿岸生態系の情報を発信。
- 令和3年(2021年)に発行された雑誌「日経トレンディ」、未来をつくるSDGsマガジン「ソトコト」で「道の駅しーまーと」が紹介される。
- 前回選定以降も、多数メディアで紹介。

前回選定後に発展させた取組及び成果

○コロナ禍を機に水産関係者だけでなく日本酒の蔵元や飲食店、宿泊施設も加わり、業種の枠を超えた地場産業の再興を目的とした「GI萩キャンペーン」を開催し、その様子をNHK山口放送局が密着取材し県内全域に放送される。また、豊かな自然環境を次世代に継承するため、水産資源を大切に考え行動できる人材育成に向けて地元小中学校、高校生を対象に道の駅スタッフによる講義や鮮魚店で魚の販売や捌き方体験を開催するとともに、発展途上国から生活水準向上のための研修生受入を実施。

応募団体からのアピール・メッセージ

平成23年(2011年)には、山口県初、水産関係でも全国で初めて地産地消優良活動表彰で最高賞の「農林水産大臣賞(交流促進部門)」を受賞。平成29年(2017年)6月に30代(当時)女性を駅長に登用し女性の社会経済活動参画に努めている。

住所・電話番号・SNS等

萩市椿東4160-61 電話:0838-24-4937 HP:<http://seamart.axis.or.jp/>

記念賞
応募しゃかいふくしほうじん いーじーえふ
社会福祉法人E.G.F

～小さな力を結集し、地域の農業を支える～



カット野菜製造の様子



提携農家からの収穫依頼



学校栄養士等の視察受入

取組内容

- メロン、イチゴ、野菜の苗作りから収穫、加工まで、障がい者の特性を農作業に活かし、持続可能な農業を確立。
- 冷凍ボイルカット野菜を製造し、主に山口県学校給食会へ販売し、県内ほぼ全ての小・中学校で使用されている。

前回選定後の情報発信の取組

- 選定前から県内初のノウフク連携事業所として、月1回平均で視察受け入れしていたが、選定後さらに増加し、議員団やJA関係者、刑務所、少年院、民間社会福祉関係者など100件を超える視察や、研究機関、法人協会、大学関係などから取材を受ける。また、行政機関や教育機関、法務機関から延べ30回の講演依頼を受ける。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 農事組合法人と当法人で『ノウフク連携協議会』を組織し、地域特産野菜を活かした冷凍ボイルカット野菜工場を建設。カット野菜は山口県学校給食会に納品。障がい者福祉事業であるため製品の安心・安全も担保されていることから、価格が高めでも発注が多く、現在は需要に供給が追いつかない状況。地域農家は廃棄していた規格外野菜が納品でき収入が増加。また、当法人の障がい者が規格外野菜を収穫に行くことで農家は片づけをする手間が減少。生産者はロスが無くなり、当法人は安価で原材料が手に入り、給食会は安心・安全な山口県産カット野菜が供給できるため『三方良し』の関係が形成されている。また各学校の栄養士との意見交換を行い、現場のニーズを吸い上げ新商品の開発（山口県産トマトのホールカット）につながり、生産するとすぐに売り切れる人気商品となった。

応募団体からのアピール・メッセージ

弱い力を集め、大きな力とし、衰退していく産業を支えていく。世の中から少なからず疎まれていた彼らが、必要不可欠な人材となる可能性があります。『この世に無駄な人間はいない』農業・商業・福祉がしっかりと連携すればそんな世の中の実現も可能だと思います。

住所・電話番号・SNS等

萩市大字下小川1000 電話:0838-74-5838 HP: <https://e-g-f.jp/>

記念賞
応募

かぶしきがいしゃせとうち

株式会社瀬戸内ジャムズガーデン

～「農」を核とした関係人口・地域産業造り～



特命農業部員によるレモンの植樹



古民家農泊施設「レモンの宿」

取組内容

- 平成19年(2007年)瀬戸内の島で6次産業型ジャム屋を1ターンにて起業。連携農家での加工用果実栽培と高価買取により経済循環を促す。
- 耕作放棄地を解消し、レモンを植樹。収穫したレモンを使用し、リキュールを製造販売。
- 障がい者施設と連携し、働く場を提供。
- 古民家を再生し、農泊施設を整備。

前回選定後の情報発信の取組

- 選定直後、周防大島橋が貨物船衝突により被災。さらにその後の新型コロナウイルス感染症渦などの外部要因を受け、選定による効果を有効活用するタイミングを逃す。
- 一方、外部要因の影響を受けにくいWEBでの情報発信により、インスタフォロワー増加、Googleマップ評価者増加と、選定の効果あり。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 令和2年(2020年)、レモンチェッコプロジェクトを開始。周防大島町がリキュール特区に追加認定されことから酒造免許を取得。クラウドファンディングで特命農業部員を獲得し、集めた資金で酒造設備を整え、レモンチェッコを開発。部員とともに耕作放棄地を再生し、レモン畑を整備。
- 令和4年(2022年)、江戸時代に島に柑橘栽培を伝えた旧庄屋の古民家を改築し農泊可能な「レモン畑の宿」を整備。地域内の飲食店や宿泊施設などと連携した「島が一つのホテル」として経済と人の循環を生んでいく取組を進める。

応募団体からのアピール・メッセージ

「農」を核に、地域と長期に関り続けていく仕組みづくりを目指し、事業構築しています。魅力あふれる周防大島へ皆さん是非お越し下さい。

住所・電話番号・SNS等

周防大島町日前331-8 TEL:0820-73-0002

瀬戸内ジャムズガーデンHP →



